

琉球大学医学部・および附属病院の最近の動向

琉球大学医学部附属 病院長 藤田 次郎

平成27年4月1日より病院長に就任しておりますが、最近の附属病院の動向について紹介させていただきます。

1. 医学部、および医学部附属病院の西普天間住宅地区への移転構想

すでに新聞報道などでご存知のことと存じますが、現在、琉球大学医学部と附属病院は西普天間に移設する構想が進んでいます。沖縄県知事、宜野湾市長、および官邸も了承していることから、今後、急速に移転に向けた準備が進んでいくこととなります。現在の移設構想を以下に図示します。

2. 救急災害医療棟の開設

2014年12月に病院東側に「救急災害医療棟」が竣工し、新棟内に救急外来が移動、本年4月からは救急外来の奥に救急病棟6床も稼働、災害医療と救急医療のセットをコンセプトにした新棟全体が稼働しました。その延床面積は688㎡と旧救急部の約3倍、全ベッド数も4床から12床と3倍になりました。その特徴は広さに余裕を持っている点です。マンパワーも医師は教官数が4名から3名増員され7名となり、救急部スタッフ9名と各科からの出向医3名を合わせた12名の医師で、救急外来と病棟を2列の勤務体制で運営します。看護師も救急外来に12名、救急病棟に新たに16名が配属されました。近い将来、high care unit加算を取得することを目指しています。

3. 形成外科の新規開設

2015年3月、琉球大学医学部附属病院に形成外科が新設されました。形成外科は先天的、後天

的なハンディキャップを機能面、整容面で改善することを目的としています。当院の形成外科が対象とする疾患は、i) 再建外科、ii) 外傷、および、iii) 先天性疾患です。その他にも、形成外科は他科で困難とされた疾患について臨機応変に診療援助を行い、病院全体のレベル向上を目指しています。現在、特に力を入れているのが医療用顕微鏡を使用して血管・リンパ管・神経などを丁寧につなぐ、マイクロサージャリー（微小外科）と呼ばれる手術の分野です。なかでも子宮癌・卵巣癌の術後に生じる下肢のリンパ浮腫（むくみ）や、乳癌術後の上肢のリンパ浮腫に対するリンパ管細静脈吻合術と呼ばれる手術に力をいれています。沖縄県唯一の大学病院に新しく形成外科が設置されたことで、当院の果たせる役割はこれまで以上に大きくなると考えています。

4. 血液浄化部の充実

本院血液浄化療法部では2011年12月より透析ベッドを20床に増床した（国公立大学附属病院では全国で2番目の規模）ほか、現在、循環器専門医が常駐し、透析専門医と協力して様々な診療科で透析患者さんが安心して治療を受けられるような体制を整えています。また、いわゆる難病とよばれるような自己免疫疾患などに対するアフレシス療法も積極的に行っています。また、腎不全が進行し末期腎不全の状態になった場合、腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）が必要になりますが、患者さんの病状・ライフスタイルに最も適した治療法を患者さん自らが選択できるように、2011年から専任の医師・看護師と詳しく相談できる体制（腎臓病総合治療学講座）を整え、包括的腎代替療法の実践に努めています。